

## 本殿

四棟の本殿は、右から左に向かってそれぞれ次の神々を祀っています：

**第一殿:** 丹生都比売大神。神社の主神である女神。災いを払い退けると言われ、長寿、農業、養蚕、機織りと関連づけられています。

**第二殿:** 高野御子大神 (別称 狩場明神)。丹生都比売大神の息子で、高野山の開祖である空海 (弘法大師、774-835)の前に獵師の姿で現れ、彼を高野山山頂に導きました。また、嘆願者を幸福に導くともいわれています。

**第三殿:** 大食津比売大神。食物を司る女神。

**第四殿:** 市杵島比売大神。弁財天という財と芸術を司る仏教の神に比定される神道の女神。

本殿は 1469 年に鎌倉時代 (1185-1333) 初期の神社建築様式を用いて再建され、現在の姿になりました。無数の厚さ 2 mm のヒノキ樹皮を押し固めてつくる厚い防水の層で葺かれている屋根は、見事な伝統的職人芸です。

この神社の鮮やかな朱色は、何世紀にも渡って鮮明な赤い顔料を作るために使われてきた水銀の鉱石、辰砂の色を模しています。辰砂の明るい橙がかった赤色は、強力な魔除けとされ、多くの寺院や神社は、この超自然的な力を求めて朱色に塗られています。この色を再現するのは非常に難しかったため、この場所で朱色がふんだんに使われていることは、神社の高い地位を象徴しています。

訪れる人々は、この本殿が普通の神社よりも繊細な彫刻や絵画で華やかに装飾されていることに気づくでしょう。彩色された龍、象、獅子 (lion-dogs) の彫刻が横梁を飾っており、軒天には 13 世紀のモンゴルの襲来の際日本を守るのを助けたと伝えられる大鴉の彫刻があります。